

【子供の未来応援フォーラム in 鳥取】

こども食堂 ネバーランドの活動紹介

2019.11.14

代表 辻 聡

子ども食堂を始めたきっかけ

きっかけは
30年程前

両親が共働き または **ひとり親** の元に暮らす
子どもの現状を聞いたこと

「何かお手伝いすることはないだろうか？」

地域のこども（我が子も含む）に「ほっ」と一息つける場づくりを

お泊り会

食事会



音楽活動

小旅行

等

近年、孤食、貧困家庭等による食生活の改善が急がれる中、
自然発生的に「**子ども食堂**」が広がりを見せていた

手がけてきたことの輪を
より一層広げたい！

保護者が育児と仕事の
両立を図れるように！

平成29年5月より「こども食堂ネバーランド」を発足

家庭事情等の相談・支援、
また日々安寧感のある生活ができるように



毎月1～2回開催

参加費

大人500円

子ども300円

40人～50人が参加

食材

殆ど購入

地域の家庭菜園

食品会社マルイ様など

企業からの提供も

子ども食堂で大切にしていること

地域の世代間交流が希薄な現代

あいさつ

履物揃え

ボランティア
の皆さんに
お礼を云う

命を
いただくことに
感謝・合掌

全員そろって
「いただきます」
「ごちそうさま」

全員で
後片付け
拭き掃除

**食事中的態度や倫理観などを教えて
将来、地域を支えてくれる立派な大人に！**

【事例】

ひきこもりだった中学生が、後片付けを通して、小学生の世話を率先して行うようになった。ほめられ、自己肯定感に結び付き、お泊り会にも参加できるようになった。その後、中学を卒業し、現在、公立高校に通っている。

孤食による孤独感をなくす

みんなで一斉に
「いただきます」

終わると一斉に
「ごちそうさま」



大きな
一体感に

季節、旬を感じる料理を提供

旬の食材を取り入れ、手をかけた
バランスの良い御馳走を提供
偏りがちな食事、出来合いのもの、
インスタント食品は使用しない。



おせち料理



クリスマス

さまざまな「体験」を提供

子ども食堂（短時間）では、子どもの心を引き出せないことが多い



お泊り会（心地良いふれあい）

寝食を共にして子どもの話に耳を傾ける

日頃不安に
思っていること

心の底に
秘めること

さまざまな
夢のある話



**自己肯定感を持てるように促す。
問題視するところがあれば支援に繋ぐ。**

自然を体感する会

自然に触れ合う貴重な時間は、生きる力が育ち自己肯定感が強くなる

農業体験



自分の手で野菜を楽しみながら収穫する体験は、
苦手な野菜を克服するきっかけに。
仕事や子育てに忙しいパパ、ママにとってもリフレッシュに。

ヨット体験 (陽・水・風を体感)



海から見る陸上の暮らしは
どんなふうに見えるかな？

学習支援

小学生程度（現在）
の宿題のサポート



活動を支えている人々

無償ボランティアは約15人



- 常時10人が参加
- 車で20分圏内

ボランティア協議会の会長を経験した代表の周囲にはボランティア意識が高い人が少なくない。

「ボランティアしたいが、料理はできない…」という人には「一緒に食べるだけでも支援になります！」と伝えています。

利用していた小学生が成人し、ボランティアとして来てくれています(3~4人)。

調理に携わる人は、固定メンバーに（衛生面から）



プロのコックさんもボランティアで参加

自分は母子家庭で育ち、貧困家庭だったと思う。寂しい思いをする子どもが少しでも減れば嬉しい。

さまざまな連携を広げています

住民同士のネットワーク

「子ども食堂」で参加保護者やボランティアさんが
支援・制度の情報交換や互いのつながりを得ています。



毎夕遅くまで公園で遊んでいる
兄弟を心配して地域住民が連れて来た

異様な姿から
支援が必要と判断

ボランティアや保護者の中に警察、児童福祉施設、福祉政
策課など関係機関の勤務者がいる

関係機関と連携して
保護につなげた

県内のNPO法人が中心となって、食品会社が子ども食堂に定期的に食材を寄付する体制を作りました。

「子ども食堂サポートシステム」を発足

行政

食品会社

子ども食堂
運営者

開催場所の
提供者等



今後の課題

《保護者の声》

- ご飯が食べられない子が来るところだと思っていた。親と一緒に来ている姿を見て、安心した。
- 開催回数を増やしてほしい。

《運営側が感じる課題》

- 地域の高齢者も参加できるように働きかけたい。
- 送迎がないと来られない子もいる。送迎回数を増やし、開催回数を増やしたい。

《今後に向けて》

多くの孤食、貧困家庭等に対して生活保護の受給や母子支援、防犯等、多岐に渡る多額の支援が行われています。その最も大きな要因は、離婚率の増加と考えます。ひとり親になる決断をする前に来てもらえるように、ちょっとした休憩の場・傾聴の場、居場所、避難場所といった駆け込み寺的施設をつくりたいと考えています。ご賛同いただける方がいらっしゃれば、ぜひ、お力をお貸しください。

